



山木康世

1950年10月22日生まれ。

フォークグループ・ふきのとう時代に
「白い冬」「風来坊」「春雷」「初夏」などの
ヒット曲をリリース。

海援隊が歌う「思えば遠くに来たもんだ」の
作曲者でもある（作詞は武田鉄矢）。

自然、生活、恋愛、社会をテーマとした楽曲を
創作し続けている。ギター演奏にも定評。独創的な
オープンチューニングによる楽曲も多数ある。

山木 康世 Live Library 2019

YASUYO YAMAKI in 江差

日時 2019/10/19(土)

限定80席

開場 18:30 開演 19:00

Ticket 2,000円

会場 江差町文化会館 小ホール

北海道檜山郡江差町字茂尻町71

【チケット販売】江差町文化会館窓口

TEL 0139-52-5115

主催 株式会社舞台派遣
(江差町文化会館指定管理者)

協力 江差町教育委員会



江差恋しや松太郎さん 文・山木康世

幼いころ札幌の家に江差の叔母さんが何度か遊びに来たことがある。

叔母さんはいつも和服を着て穏やかな人だった。江差と聞くとこの叔母さんを思い出す。「松太郎さん樺太へ」という歌を数年前に作った。母の故郷は函館、祖父は木村松太郎という人で、函館で網元をしていた。祖父はニシンの季節になるとヤンシュウを引き連れて樺太へ渡り、ニシン漁をしていたそうだ。しかもどうやら祖父は樺太に居を構え、母はそこで生まれたという。当時の樺太はちょうど半分が日本、半分がロシアという構図。母は国境付近でロシア国境警備兵によく遊んでもらったという話を生前していた。

先日ネットで江差町役場の歴史(※)を読んでいたら、その中の1ページに松太郎さんの名前を見つけた。偶然であるが詳しく見ていたら、当時江差にあった造船所の代表者が50人近く書かれていて、その中に木村松太郎を見つけたのだ。江差と松太郎さんとのつながりの大発見である。そのころ全国各所から一攫千金ニシンを当てようとギャンブラーが大挙押し寄せた。祖父も一時期は大金持ちだったが、ニシンが不漁になるとガラリと状況は急変、かなり悲惨な状況だったようだ。

僕は木村松太郎とは会ったことがない。生まれた時にはもう天上人だった。在りし日、江差で何かと血氣盛んに日々を過ごしていた祖父を勝手に妄想する。公明正大に生きていたであろう若き日の松太郎さんに栄光あれだ!

来る10月19日、江差でコンサートを行います。訪れたことのない遠い江差なのですが、心の内では、何かといつも近くにあった江差の町。今から初訪問にワクワクイソイソしております。祖父や叔母さんに会いに行くこともあります。どうぞみなさん遊びに会いに聴きにいらしてください。心よりお待ち申し上げております。

(※)

“熊石村往復公檄”(北海道公文書館所蔵開拓使文書)によれば、明治6年熊石村外2村の新規造船は1か年で計106艘に及んだ。明治6年の造船者(船主)は次のとおりであるので、当時の漁業の経営規模を知るため重要であるので、掲げる。

熊石村 持符船 木村 松太郎

【演奏予定曲】

白い冬

ひとりの冬なら来るな

風来坊

松浦武四郎

春雷

哀歌

松太郎さん樺太へ

思えば遠くへ来たもんだ

ふる里に春が来た

その他全20曲

